

釜石発

中学生が「復興提言書」

釜石市立大平中学校の3年生6人が、自分たちの目線で復興についてまとめた提言書を野田武則釜石市長に手渡しました。生徒たちは街づくりに携わるNPOの協力を得ながら学校でのアンケートや実際に街を歩いての調査を去年4月から行い復興への課題をまとめました。提言は通学路への街灯の設置、津波避難の誘導看板の設置、運動施設の整備の3項目をあげています。野田市長は「指摘された課題を検討し、また話す機会を持ちたい」と話していました。(1/24 ニュース)



釜石発

絆を深める「餅つき行事」

震災被災者用に建設された釜石市の公営住宅で、入居者の絆を深めようと餅つきが行われました。餅つきを行ったのは上中島復興住宅の自治会です。上中島復興住宅は釜石市第1号の災害公営住宅としておとし整備され、53世帯100人余りが暮らしています。普段、顔を合わせる機会が少ないことから自治会初のイベントとして餅つきが行われました。餅つきには入居者40人が参加し、交代で餅をつき、でき上がった餅を食べ、交流を深めていました。(1/25 ニュース)



大槌発

「復興推進隊」事前研修



大槌町の復興を支援する「復興推進隊」が発足し、4月からの活動開始を前に事前研修が始まっています。復興推進隊は町が人材を全国から

募ったもので首都圏や県内各地から23人の応募があり、22歳から46歳までの男女5人が採用され、1月25日から事前研修が始まりました。5人は4月から5年間、町内の仮設住宅で暮らしながら町の復興を支えます(1/26 ニュースエコー)

陸前高田発

「米」を活かす創作料理



陸前高田市の農業復興のシンボルとして生産されているブランド米『たかたのゆめ』の普及拡大を図ろうと、地元の食材を使い「『たかたのゆめ』の風味を活かした料理」や「おかず」などのオリジナル料理発表会が行われました。地元で水揚げされたサケを使った棒寿司や米崎リングが入ったチャーハンなど10種類の料理を創作したのは、兵庫県有馬温泉の高級ホテルなどで腕を振るう和食の料理長・大田忠道さんです。参加した市内の飲食店の店主らは創作メニューの提案を受け、それぞれの店舗で活用していこうと試食して味を確かめていました。(1/26 ニュースエコー)



大槌発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週はおおつちさいがいFMの山口藍さんが、最初に町のシンボルとも言える蓬莱島の瓦礫撤去について伝えてくれました。ここは震災後そのままになっていましたが、この度大型船にクレーンを乗せて撤去作業を行ったもので、今後は新しい鳥居を設置したり塩害に強い樹木を植えたりして整備するとの事です。次の話題として住宅再建の仮申し込み状況について伝えてくれました。災害公営住宅は募集を上回る申し込みがあったものの、防災集団移転団地は募集を下回ったという事で、住宅再建についてはまだまだ定まらない状況だという事です。(1/28)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122